

愛宕中学校第1学年 国語科「幻の魚は生きていた」

【本時（3/7）の評価規準】

読む能力

文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりしている。【読（1）イ】

児童・生徒の主な活動

学習課題 本論1を要約し、聞き手に正確に伝わるニュース原稿を作ろう。

（板書計画）

評価の観点
 ・問いに対する答えがあるか。
 ・中心となる文が入っているか。
 ・筆者が何を伝えたいのかが明確になっているか。

↓問われていることだけでいいのか？

本論1の中心となる文（P166L5）
 クニマスは、人の手による環境の改変によって、他の多くの生物と共に田沢湖から姿を消した。

・序論と本論との関係（問いに対する答えはあるか？）
 ・中心となる文はどこにあるか。

⑦ ⑤ ⑥ ④から⑥段落のまとめ
 ④ 田沢湖周辺の人々とクニマスの関わり
 ⑤ 絶滅に至る経緯

・ニュースの時間 ↓一分程度
 読める字数 ↓（三〇〇字～三五〇字）

幻の魚は生きていた
 学習課題
 本論1を要約し、
 聞き手に正確に伝わるニュース原稿を作ろう。

1. 前時の復習と本時の目標確認

2. 本論1を読み、ニュースの原稿として要旨をまとめる。 **個人思考** **主体的な学び**

※1つのニュースの時間は1分程度。読める字数は300～350字程度であることを伝える。
 ※限られた字数で正確な情報を伝えるためにはどの部分が必要かを考えさせる。→中心となる文の確認。

3. 「自分流ニュース原稿」を交流する。 **班学習** **対話的な学び**

※個人で考えたことを基にして、グループで交流させる。→アドバイスをし合うように指示する。
 ※友達の見解でいいものはメモを取らせる。
 ※読み合う際に必要な観点を明確にする。

4. 交流したことを基にして、再度検討する。
 ※生徒の様子を見て、個人学習か班学習かをきめる。
 ※時間を見て全体交流をする

5. 自己評価を記入する。
 ※事実と意見をしっかりとかけるよう指導する。

6. 次時の予告

生かしたい知識・技能

- ・各段落の役割を考えたり、図と照らし合わせたりしながら、文章の内容を的確に捉え、要約している。
- ・段落のまとめや段落どうしの関係を捉えることができる。
- ・示されている事実と、筆者の考えや意見の関係を理解させる。

言語活動充実のポイント

文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりしている。【読（1）イ】

- ・ニュース原稿にする場合には字数の制限もあり、事実を正確に伝えるために必要なことは何かを考えさせる。
- ・単元を貫く言語活動として、「幻の魚」新聞を書くことを設定して単元を通して、生徒が主体的に課題に取り組めるよう学習活動を工夫する。

言語活動充実のための教師の主な働きかけ

本時に限らず、学習の流れとして個人で考え、小グループ、全体で交流する。個人で考える時間をしっかりと確保し、一人一人の学習が深まるように工夫している

本論1をインタビューしましょう。インタビューしたことを1分間のニュースにします。1分間で相手に正確に情報を伝えるためには、どのように工夫してまとめていけばいいのでしょうか。考えてみましょう。

- ・ニュースとして1分間に読める字数の確認をする。
- ・本論1の中心となる段落に注目させる。
- ・発言する際には、根拠を示して発言できるように根拠を明確にし、自分の考えを深めさせる。

・グループで交流する時には、必ず自分の意見に根拠を付けて発言しましょう。また、友だちの意見で「なるほど」と思うものは、ワークシートにメモを取りましょう。そして、友だちの意見を聞いて更によくなるようにアドバイスをしましょう。

- ・考えを伝えあうことで、自分自身では気づかなかったことに出会い、思考を深める事ができる。
- ・自分の意見を伝えあうことで色々な考え方やもの見方があることに気づく。

・交流したことを基にして、もう一度原稿を書き直して見よう。

- ・必要に応じて文章を要約をまとめる必要性について気づかせる。
- ・友だちとの意見交流のなかで、要約することのポイントに気づき、今後の生活に役立てることができるよう促す。

実践を振り返って

生徒は目的意識を持って、意欲的に授業に参加し班活動の中で自分の考えを述べたり、限られた字数で要約しようとして努力する姿が見られた。

参観者の先生方からも課題の設定に工夫があり、生徒が意欲的に活動出来たのではないかという言葉がいただいた。ニュース原稿という目的意識があり要約していたことが意欲的に活動できた結果に繋がったのではないかと思う。しかし、授業力チェックシートを見ると、教材研究、授業構成、指導技術に課題がある。班活動が停滞したときの生徒への手立てや生徒のつぶやきを全体へと繋げるなど自分自身の課題がよく分かった。また、学習内容を汎用できる力を身に付けるための適用問題や評価問題の実施など、1時間の授業構成の中で組み込むことは難しいことだが、教材研究を重ねる事で、授業構成を見直し課題解決へと繋げていきたい。

生徒たちの振り返りをみると、要約をするという作業は難しいけれど、ヒントがあったり班活動をすることで課題に挑戦出来たということが書かれていた。交流を通して他の人の考え方を知り、自分の考えを広げることに繋がっているように感じる。そのことが主体的な学びに繋がっていると考える。課題を解決するために何度も教科書を読み直し、線を引きながら原稿を書くことで作品との対話的な学び、班学習をすることで対話的な学びが成立していたように感じている。

指導の効果

◆目的意識をもって要約に取り組むことで、普段は課題に向き合えない生徒も意欲的に取り組む事ができていた。他の教科でも要約をするという力は必要な力である。国語で身に付けた力を他教科でも発揮できるよう今後も指導したい。